

令和2年度第1回新上五島町行財政改革推進委員会議事録

日時 令和2年10月12日(月) 13:20~14:47

場所 新上五島町役場 3階F会議室

出席者

○行財政改革推進委員会委員

出口会長、荒木会長代理、小川委員、近藤委員、竹山委員、田崎委員、千葉委員、道津委員、永田一志委員、永田孝子委員、森下委員

○新上五島町

浦田副町長、岡山政策企画担当理事、堀江総務課長ほか関係課長

次 第

1 副町長挨拶

2 議事

(1) 第3次行財政改革実施計画の令和元年度進捗状況について

(2) 新上五島町行財政改革推進プランの策定について

開 会

【事務局】

ただ今から令和2年度第1回新上五島町行財政改革推進委員会を開催いたします。

私は事務局を務めます総務課長の堀江でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

この委員会は13名の方に委員にご就任いただいておりますが、本日は大坪委員、柴田委員が都合により欠席されております。

また、人事異動により、荒木新上五島町商工会事務局長様に今回ご就任いただいておりますのでご紹介いたします。荒木事務局長様には、浜辺会長代理の後任として、引き続き会長代理をお願いしたいと考えておりますが皆様いかがでしょうか。

(異議なし)

それでは、荒木会長代理、今後ともよろしくお願いいたします。まず、配付資料のご確認をさせていただきます。本日の資料は、事前配付の令和元年度進捗状況、新上五島町行財政改革推進プラン案と次第、委員名簿、配席表、町長からの諮問、柴田委員からのご提案に関する資料となっております。不足している資料があればお知らせ下さい。

それでは、開会にあたり副町長がご挨拶いたします。

(副町長挨拶)

ここからの進行は議長として、出口会長にお願いいたします。

【会長】

それでは、議事に入ります。第3次行財政改革の計画期間は平成28年度から令和2年度ま

でとなっておりますが、計画4年度目にあたります令和元年度までの進捗状況、成果などについて、審議いたします。

事務局から説明をお願いします。なお、質疑は説明後に行いたいと思います。

【事務局】

第3次行財政改革実施計画書（令和元年度進捗状況）により概要説明

【会長】

第3次行財政改革実施計画の進捗状況について質疑を行います。ただいまの説明について、質問、意見などはありませんか。

【委員】

「診療所の経営健全化」について、患者数が減少している原因はわかっているか。

【事務局】

診療所は無床化しており、入院患者は上五島病院へ通っている。地域医療を支えるうえで診療所は欠かせない存在であるが、地域の人口も減少しており患者数は減少している。

【委員】

病院は朝から行っても昼までかかる。診療所を活用するシステムづくりが必要だと思う。

【会長】

次に、新上五島町行財政改革推進プラン案について審議いたします。この件につきましては、新上五島町行財政改革推進条例第9条の規定に基づき、町長から新上五島町行財政改革推進プランの策定に関し、本委員会に意見を求める諮問がっておりますので申し添えます。

それでは事務局から説明をお願いします。

【事務局】

新上五島町行財政改革推進プラン（案）により概要説明

【会長】

新上五島町行財政改革推進プラン案について質疑を行います。ただいまの説明について、質問、意見などはありませんか。

【委員】

時間外勤務について、昔勤務していた職場では自己申告制で、職員自身の感覚や都合で申請し所属長が承認していた。業務を改善して早く帰る人より時間外勤務をする人の方がやる気があるとみられる風潮があった。「事前命令の徹底」という取組みがあるということは、まだ、そういった風潮が残っているのではないか。そういう状況では時間外勤務の削減は進まない。真に時間外勤務が必要なら根本的な対応を考えるべきである。自分や家族の時間を大切にするため、業務を改善して早く仕事を終えて帰る人が評価される仕組みを作っていくべきである。

【事務局】

国で働き方改革が進められ、自分の時間を大切にしている時代になっている。時間外勤務をする場合は、事前に所属長に申請し、時間外勤務が必要な業務かどうかを判断して承認するように、課長会議で徹底している。通常業務の時間外勤務を削減し、自分の時間を大切にしたい。

【委員】

行財政改革のこれまでの取組みはよくやっていると思う。「町政を取り巻く環境」で2040年には人口が9,320人に減少する推計となっており、島内で商売している方は続けていけるのか不安だと思う。少子化が進む中で若年層の家族を地域で守っていく必要がある。20代～30代の人口を残すことを計画的に進めていかなければならない。人口が減少していく中で行財政改革を進めていき、調整が成り立っていくのか心配である。保育所や学校の統廃合は難しいのか。

【事務局】

小中学校の統廃合については5年ごとに計画を作り、生徒数が一定の基準になった場合に検討することになっている。本年度、浜ノ浦小学校を閉校し青方小学校に統合する。令和4年度からの統廃合計画は今年度から来年度にかけて策定する。統廃合については、保護者や地域の意向を踏まえて進めていく。

【委員】

スクールバスが走っているが乗っている生徒は少ない。保育所、幼稚園、小学校、中学校を一括して新しい学校を作る考えはないか、今後考えてほしい。

【事務局】

5年ごとに計画を見直すうえで、その辺りも踏まえて検討することになると思う。統廃合を進めると一地域に偏るため、地域から学校がなくなると寂しいという意見もあり、地域住民との話し合いが課題になると思う。

【事務局】

令和3年度から6年度までの行財政改革推進プランに具体的な計画を盛り込むことは難しい。保育所から幼稚園、小学校、中学校への動きを見ながら検討させていただきたい。

【委員】

平成24年～26年にかけて、「日本の宝しま体感事業」で、小学校5、6年生を対象にその父兄も上五島に呼んで2泊3日で交流事業をしていた。その時、町に来てくれた子どもが大学生になって来てくれるようになった。非常にありがたいこと、町で取り組めないか。

【事務局】

生涯学習課が県の3か年事業で実施したと記憶している。現在、南阿蘇村など姉妹町と交流しているが、民泊等での交流となっている。

【事務局】

本町は修学旅行や教育旅行で民泊を活用した受入れが遅れていることから、本年度から修学旅行や教育旅行を受け入れるためのコンテンツ作りを行うこととしている。子どもたちを上五島に連れてくる取組みを進めていきたい。

【委員】

「新たな収入確保策の検討」で、頭ヶ島の集落の来訪者から料金を徴収する制度の構築とあるが、頭ヶ島教会の施設の入館料や駐車料金の徴収ということか。現在、シャトルバスが走っているがバスの乗車料金を取るのか。

【事務局】

シャトルバス、交通誘導員、インフォメーションセンターなど多額の経費がかかっており、見直す必要がある。バスなどの直接入場に対し、駐車料金を徴収したいと考えている。

【委員】

世界遺産になった時、旅行者に車の直接の乗り入れはできないため、シャトルバスへの乗り換えをお願いしてきた。今、ようやく土台もできたところで元に戻すのは大変ではないか。シャトルバスの乗車料金を徴収したほうがいいのではないか。

【委員】

シャトルバスで頭ヶ島教会に行くには1時間以上かかる。船の時間から結局行けなかったという苦情は多い。シャトルバスをいつまで続けられるか心配であり、有料化することは良いことだと思う。

【委員】

駐車料金を徴収する場合、大型バスとマイカーを分けるとしたときに、マイカーは直接乗り入れで駐車料金を徴収するならシャトルバスの乗車料金を徴収しないと不公平ではないか。料金収入でバスの運行経費が賄えるようになれば、バス会社持ち回りで割り当てることも可能ではないか。巡礼手帳から「町の経営が厳しいから」という文言は外して、巡礼手帳の代金は皆様の善意として教会に反映されますという文言に変えた方がいいのではないか。

また、頭ヶ島教会とうどんの里に置いてある教会の写真が入った300円の絵葉書をすべての教会に置けないかという意見を観光客からよく聞く。

【事務局】

絵葉書については、町の発行ではないのでこちらから話ができない。巡礼手帳の販売収入はシャトルバスの運行や環境保全、上五島地区のカトリック教会への寄附に充てている。来島者が世界文化遺産の教会群を保全するという動きに繋がる取組みとして謳っており、シャトルバスの運行経費のみに充てるものではない。

シャトルバスの乗合料金を徴収するには、乗合バスの許可がある業者しかできないが、島内には西肥バスしかない。世界遺産に登録されると多くの方が来られるが、教会付近には駐車場がほとんどないため、パーク&ライド方式で行うことになった。通常のパーク&ライドは公共交通機関を使うが、空港から白浜まで乗合バスがないため、制度上、貸切バスでの運行となった。島内の貸切バス業者2社に意向を伺ったところ西肥バスからできないとの意見であったため、もう1社に貸切バスとしてお願いしている。

パーク&ライドは、世界文化遺産になった時に多くの観光客が訪れると地域で生活されている方が困るということで、多客期の当初3年間はパーク&ライドで行い、3年後に見直すということで始めたもの。本年度で3年目となり、新型コロナの影響で乗車数も減少したが、運行経費はかかることから、地域の方から検討するようご意見をいただいたので、シャトルバスを

廃止し、直接車両の乗り入れを可能にし、駐車料金を徴収するというのが今回の計画である。

【委員】

パーク&ライドが当初3年間の計画だったということであれば理解した。

【事務局】

3年目での見直しは庁内での話であり、対外的には一部の方だけにお話ししていた。お詫びします。

【委員】

「内部管理経費等の削減」で、公共施設の電気料金の経費削減の取組みがあるが、1億3千5百万円を9千3百万円に削減するのは厳しい目標と思うがいかがか。

【事務局】

基準値は令和元年度の実績値で、高圧の電力について入札した結果、落札率で約68%だったことから、その実績値を計画値としている。

【事務局】

昨年度、委員からご提案がありました町封筒への広告掲載について、業者から見積もりを取ったところ、カラーの場合は約17万円増となるため、広告掲載費用が高くなり厳しいと思う。モノクロの場合は今と変わらない費用で対応可能と考えていますがいかがでしょうか。

【委員】

町封筒への広告掲載については、町の収支が合うようなら協力する。

【委員】

職員の人員削減による効果額を出しているが、民間企業では総人件費の中で人員調整している。若い人材に切り替えることで総人件費に対する人員の調整は可能か。

【事務局】

人件費の効果額は、令和元年度の人件費に削減人数を掛けて算出している。職員数について、前計画では交付税が24億円減少するという前提で厳しめの人数としていたことから、今回の計画では緩やかな減少にしている。前計画では令和7年度の職員数の目標を333名としていたが、15名増の348人の計画とした。計画では退職者の半数を新規採用することとしており、そこで効果も出てくると思う。65歳定年制の導入もあり、給料は7割程度に抑えるということもある。そことのバランスを取りながら調整していく必要があると考えている。

【委員】

育児休業の取得促進について、女性が子育てしやすい環境を作るには、地域のコミュニティ活動やボランティアを活用して、公民館などを利用して新生児をお世話し、母親の負担を軽減する制度を取り入れていくべきではないか。地域で子育てしやすい環境を作ろうという機運の醸成が必要と思う。

【事務局】

担当課の福祉課が公務で出席できなかったため、ご提案の内容は福祉課につないで検討させ

ていただきます。

【委員】

火葬場について、奈良尾の火葬場が廃止されると上五島まで行くことになるのか。

【事務局】

若松か上五島の火葬場をご利用いただくことになる。

【委員】

廃止の理由は施設の老朽化が原因か。

【事務局】

奈良尾の火葬場は 38 年ほど経過しており一番古い。次に古いのが若松である。古いものから廃止していく。

【委員】

地域住民に直接影響が出るため、住民の意向を汲んだ対応をお願いします。

【委員】

福江の方では年間 600 人以上が亡くなり、斎場は 5～6 件ある。上五島は 300 人～400 人亡くなっているが、斎場はない。民間では難しい面がある、公共でできないか。

【事務局】

今のところそのような計画はない。

【会長】

ほかにご意見等ないようですので、ただ今のご意見等を踏まえ、次回、11月9日の委員会で新上五島町行財政改革推進プラン案及び諮問に対する答申の内容を協議したいと考えておりますのでよろしくお願いします。

本日の議事はこれで終了しました。その他の皆様から何かございませんか。

(なし)

ないようでございますので、以上をもちまして令和2年度第1回行財政改革推進委員会を閉会いたします。長時間のご審議お疲れ様でした。